

RESASからみた観光

RESAS（リーサス、地域経済分析システム）は、まち・ひと・しごと創生本部事務局が地方自治体の様々な取り組みを情報面から支援するため、産業構造や人口動態、人の流れなどのビッグデータを集約し、可視化したシステムです。現在、RESASは「産業マップ」「地域経済循環マップ」「農林水産マップ」「観光マップ」「人口マップ」「消費マップ」「自治体比較マップ」の7つで構成されています。

今回はその中の「観光」を使って遠州地域および静岡県を分析してみたいと思います。

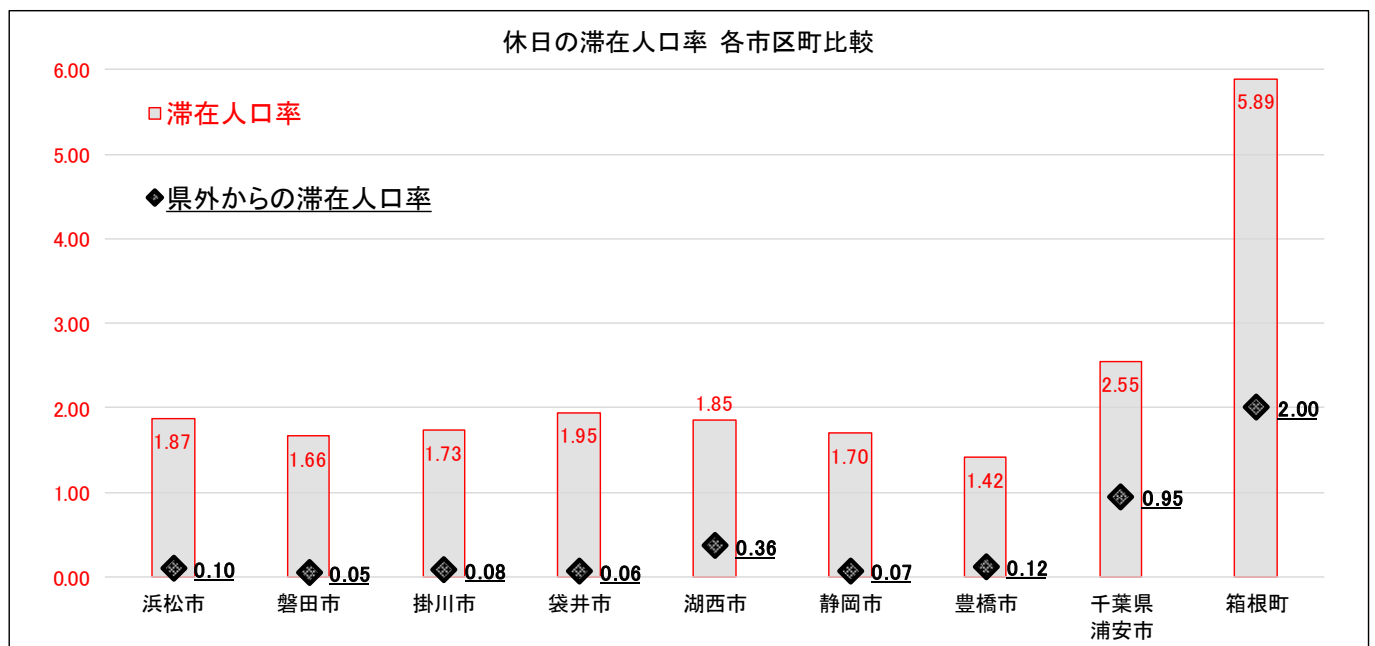
滞在人口の比較

RESASにある「滞在人口」の分析では、どの程度の人数が域外から来ているか、またどの地域からたくさん来ているかなどをRESASのマップで把握することができます。この滞在人口に使われた調査手法は、スマートフォンの「位置情報」を利用したものであり、ここでは一定の地域に2時間以上とどまっていることを「滞在」とみなしています。位置情報による分析は、近年、買い物や観光などに活用できるツールとして非常に期待されています。

浜松市の休日の滞在人口をみると、人口80万人に対して150万人が滞在しています。人口から滞在人口を割った滞在人口率は1.87であり、滞在人口が多いほど滞在人口率は高くなります。そのうち、県外からの滞在人口は7.6万人であり、県外からの滞在人口率は0.10となりました。県外からの滞在人口が多くなれば、宿泊やお土産や外食など浜松市でお金を使ってくれる金額が増えると期待できます。

県外からの滞在人口率を近隣の市と比較してみると、磐田市・掛川市・袋井市は浜松市と大きく変わらず、湖西市が0.36と浜松市よりも高いことが分かりました。ただ、豊橋市も0.12と浜松市よりも高いことから、両市が他県と隣接する市であり、県外への行き来が容易であるため、滞在人口率も高いと考えられます。

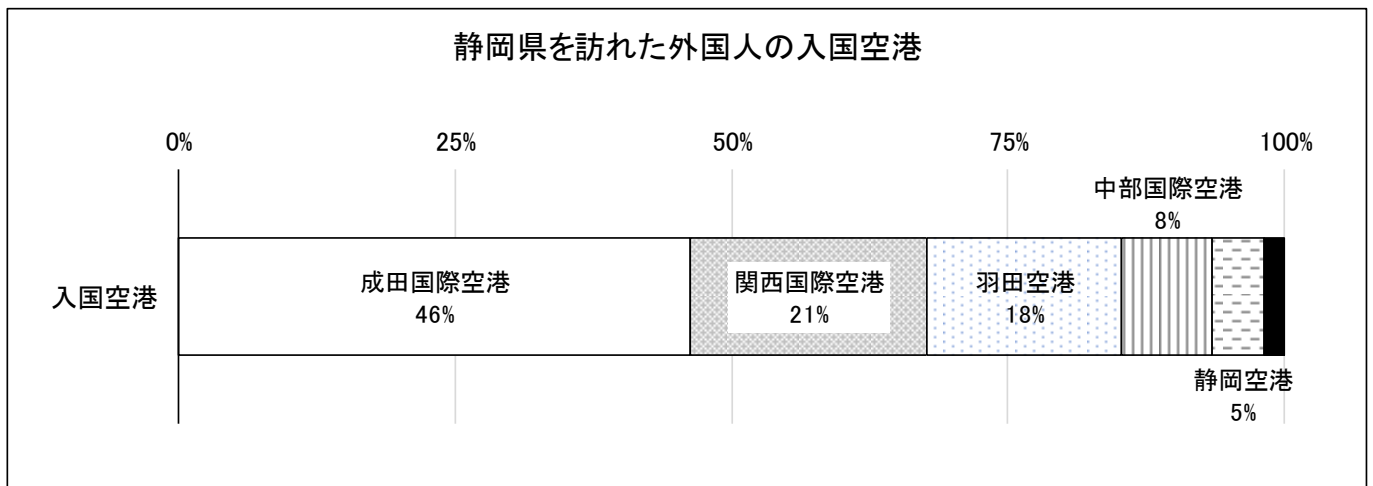
ちなみに、観光名所である箱根町の県外からの滞在率は2.00、東京ディズニーリゾートのある千葉県浦安市は0.95といずれも高い数値を示しています。こうした観光名所や商業施設は県外からも多くの集客と消費を期待できるため、観光振興にとってこれらの観光資源は非常に魅力があります。



外国人の入出国空港の分析

次に、外国人訪問客の動向を RESAS の「外国人入出国分析」から調べてみます。これも同じく位置情報によって推計された統計です。まず、静岡県を訪れた外国人の入国空港をみると、成田国際空港から入国した割合が46%と最も多く、約半数を占めました。2番目が関西国際空港の21%となり、3番目が羽田空港（東京国際空港）、4番目が中部国際空港となり、これらの上位4空港で全体の9割以上を占めます。静岡空港は5番目の5%となりました。近年、静岡空港では国際線の搭乗者数が好調ですが、とは言え、空港全体でとらえた場合は僅かな割合でしかありません。今後も外国人の利用を積極的に進めていく必要があります。

では静岡県を訪問した外国人の入国および出国それぞれの空港の組み合わせはどうでしょうか。最も多い組み合わせは成田×成田の29%で、次いで関西×成田の13%となりました。上位10位では5位の中部×中部を除いて、いずれも成田、関西、羽田を利用した組み合わせとなりました。11位によようやく静岡×静岡がランクインしましたが、わずか2%でしかありません。



静岡県を訪問した外国人の入出国空港

順位	入国空港	出国空港	構成比
1位	成田	成田	29%
2位	関西	成田	13%
3位	成田	関西	12%
4位	羽田	羽田	11%
5位	中部	中部	5%
6位	関西	関西	4%
7位	羽田	成田	3%
8位	関西	羽田	3%
9位	成田	羽田	3%
10位	羽田	関西	3%

順位	入国空港	出国空港	構成比
11位	静岡	静岡	2%
12位	中部	成田	2%
13位	成田	中部	1%
14位	静岡	関西	1%
15位	関西	静岡	1%
その他			7%

※成田国際空港＝成田、東京国際空港＝羽田
 中部国際空港＝中部、関西国際空港＝関西
 富士山静岡空港＝静岡

静岡県への滞在前後の移動

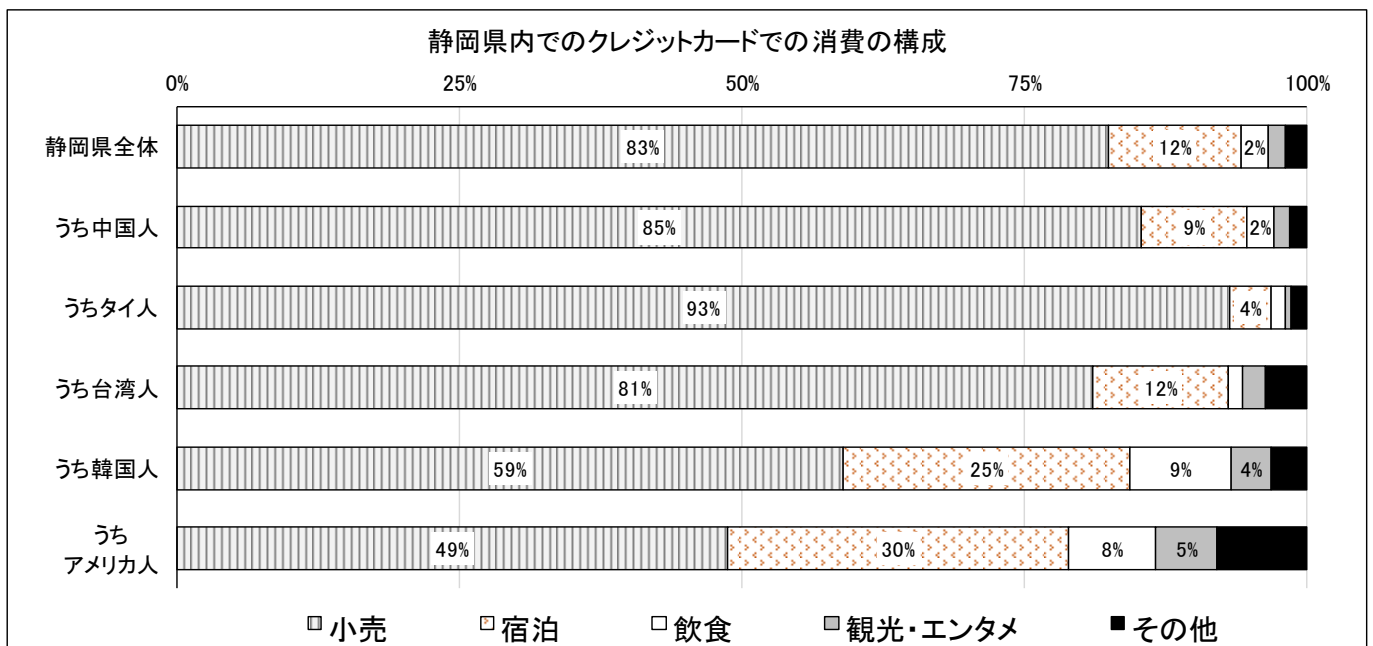
「外国人移動相関分析」では、指定した地域に滞在した外国人訪問客がその直前または直後に滞在した地域を、都道府県単位で確認することができます。これにより、外国人訪問客の周遊ルートを把握することができます。この分析についても2時間以上滞在した外国人訪問客を「滞在」とみなしています。静岡県を訪れる前後に滞在した都道府県は前後ともに神奈川県が最も多く、2番目が愛知県、3番目が山梨県となりました。この上位3件で95%以上を占めており、いずれの県も静岡県に隣接する県となりました。観光名所や商業地である京都府や東京都などから直接、静岡県にやって来るのではなく、静岡県の隣接県に滞在してから静岡県にやって来るのが分かりました。特に、神奈川県と愛知県の2県で7割近くに達することから、これらの県で多くの外国人訪問客がどの場所で何をしているのか、非情に興味深くあります。

静岡県の	直前に滞在した地域		直後に滞在した地域	
	順位	地域	割合	地域
1位	神奈川県	46.78%	神奈川県	47.23%
2位	愛知県	34.14%	愛知県	32.54%
3位	山梨県	18.32%	山梨県	18.44%
4位	東京都	0.52%	東京都	0.66%
5位	千葉県	0.10%	千葉県	0.06%
6位	滋賀県	0.04%	京都府	0.04%
7位	大阪府	0.03%	滋賀県	0.03%
8位	京都府	0.02%	岐阜県	0.03%
9位	三重県	0.02%	大阪府	0.03%
10位	岐阜県	0.01%	三重県	0.03%

外国人訪問客における消費の構成

RESAS 中の「外国人消費花火図」では、外国人訪問客がクレジットカードで何を購入したか、部門別に見ることができます。それによると、最も多い消費部門は小売が83%と最も多く、全体の8割に達しました。2番目は宿泊となりましたが、12%とわずか1割程度にとどまりました。これは宿泊代金がツアー代金に含まれていて、静岡県内で支払っていないためと考えられます。飲食はわずか2%となりました。消費単価が比較的安い飲食についてはクレジットカードではなく現金で支払っているためと考えられます。

国籍別で見ると、中国、台湾、タイの小売部門の比率が8~9割と高くなっています。一方、韓国やアメリカの小売の割合は5割程度にとどまっており、宿泊や飲食、観光・エンタメの割合が高くなっています。今後、アジア諸国でも個人旅行が増え、旅行スタイルの多様化が進むようであれば、地域にお金が落ちるようになることが期待できます。



※グラフはいずれも RESAS のデータを基に当研究所が加工作成しました